

今月の  
症例

ホームページ掲載版では、症例提示を非公開としています。



Osaka Medical College  
Cardiology

●大阪医科大学附属病院 循環器内科ではお困りの症例の電話による  
相談窓口を開設させていただいております。

当院のスタッフ(循環器専門医)が、緊急症例の受け入れに限らず、外来受診の予約など幅広く対応させていただきますのでご利用ください。

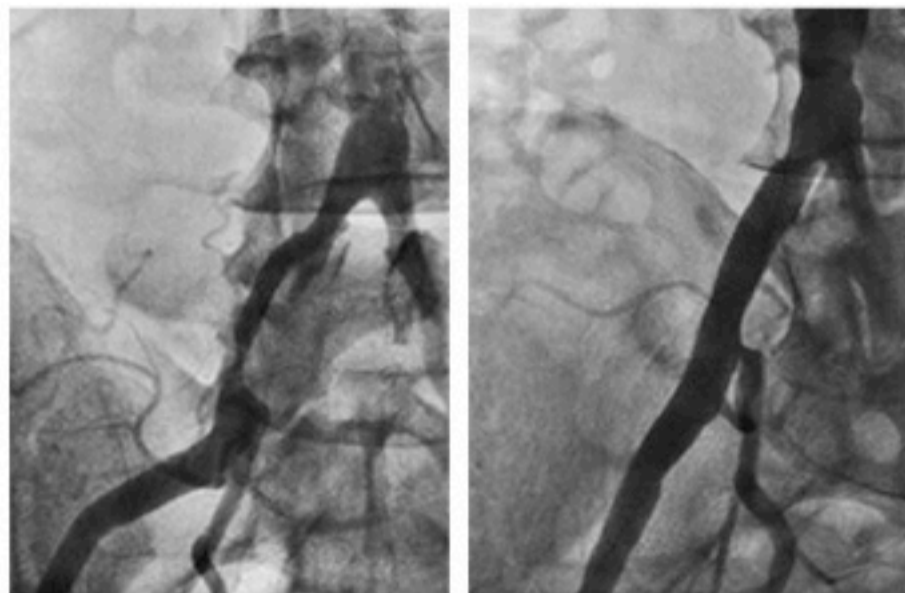
24時間対応させていただきます



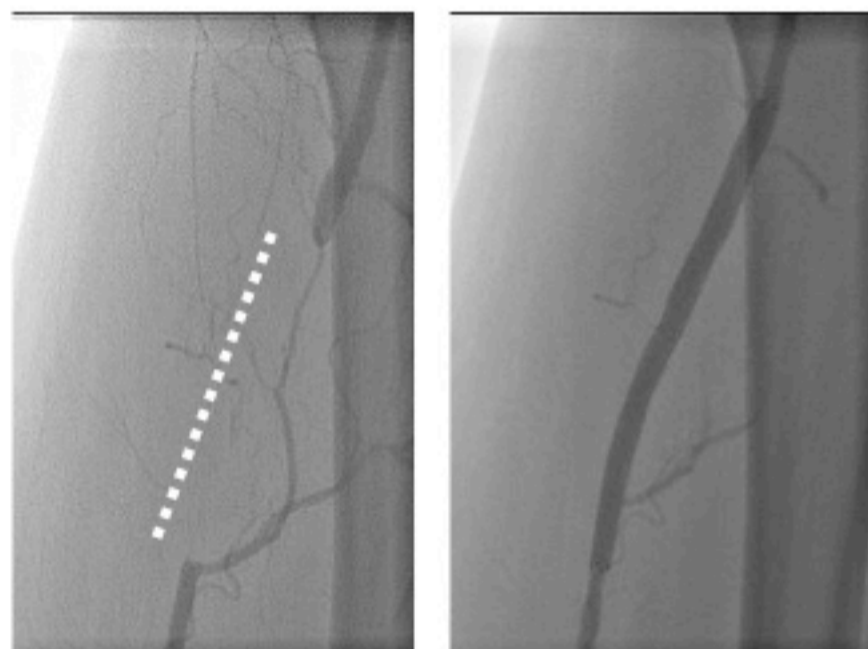
## 近況報告



## 下肢閉塞性動脈硬化症でお困りの患者さんがいましたらご紹介ください



右総腸骨動脈の狭窄病変に対してステント留置



右浅大腿動脈の完全閉塞病変に対してステント留置

閉塞性動脈硬化症の原因は動脈硬化症です。冠動脈と同様に、高血圧、高脂血症、脂質異常症、喫煙が危険因子として病変の進行に寄与します。

代表的な症状は間欠性跛行であり、病変の進行とともに安静時にも症状が出現するようになります。また、近年、非常に増加しております脊柱管狭窄症の主症状も間欠性跛行であり、本疾患との鑑別が必要となります。(脊柱管狭窄症と診断されている患者さんの約10%に本疾患を合併しているとの報告があります。)

スクリーニング検査としては足関節上腕血圧比(ABI)が簡便で再現性に優れるため頻用されます。0.9以下の場合には病変の存在を疑い画像検査を行います。エコーや造影CT、MRAを行い、狭窄病変が同定された場合は血管造影検査を行います。当科では左図にありますように、ステント留置による血管拡張術を積極的に行っております。患者さんは血行再建直後より症状の改善を実感できるため、非常に喜んでいただいております。

間欠性跛行の症状で困っておられる患者様がいらっしゃいましたら、是非ともご紹介いただきますようお願いいたします。

### TOPICS

循環器内科ホットラインでは入院対応が必要な患者さんだけでなく、外来診療についても24時間対応させていただきます。日常診療で疑問に思われる症例がございましたら遠慮無くご連絡ください。

**入院での精査・加療の必要性が高い患者さんについてのご連絡の他、外来受診の調整(当日受診も含む)などのご相談にもホットラインをお使いください。**

